

国内最大径の耐震補強金具

インフラメンテ大賞受賞技術

φ1350ミリを施工

大成機工 富山市内で

大成機工が開発した「耐震補強金具」の国内最大径となるφ1350ミリの工事がこのほど、富山市内で竣工した。耐震補強金具は、昨年度の「第2回インフラメンテ大賞」において厚生労働大臣賞を受賞した製品。3DkNの離脱防止性能を有しており、既設のA形・K形、T形ダクタイル鉄管の継手部に取り付けることにより、耐震性能を向上させることができる。

富山市上下水道局では、小水力発電設備から排水管を既設の北部幹線（φ1350ミリ、K形ダクタイル鉄管）の下に初は排水管の上側の既設管の両端にあるK形継手2カ所をコンクリートブロックで防護する予定だったが、

しかし、コンクリートブロックは重量があり既設管路に与える影響が大きいことや、コンクリートの養生には時間がかかることから、他の方法による対応を模索していたところ、大成機工が大口径耐震補強金具を開発したことを知ったという。同局での検討の結果、K形継手性能を阻害しないこと（設置後も許容曲げ角度まで屈曲可能）、耐震管の離脱防止性能基準

・3DkNを不排水で付与できること、掘削寸法の狭小化や施工時間の短縮につながることを確認し、採用に至ったという。施工の元請けはサコウ建設。耐震補強金具は、数片の製品をボルト・ナットで組み立てて、継手部を覆う構造。1カ所の施工時間は、金員搬入から設置までおよそ70分で完了したという。



設置工事の様子